

# 小学生における性役割の認知

南 憲 治

それぞれの性に期待される役割（性役割）を取ることは、児童期の子どもの発達課題の1つであるとみなされているが (Havighurst, 1953), 社会の変化に伴って、これまでのように性に応じた役割を男女それぞれに固定的に求める傾向は弱くなりつつあると思われる。しかし、小学生を対象に、どのような時に男（女）らしくしなさいといわれたかについて調べたところ、依然として男女に対して異なった役割が強く期待されていることが示された (南, 1984)。

そして、特に女子の場合、小学校の4年生頃から、自らに期待される役割が、男子に期待される役割よりも社会的な束縛が強く、不自由であることに気づき (南, 1984), 自らに期待される性役割を受容し、それを遂行する上で大きな葛藤が存在しているようである (南, 1980)。

このように男子の場合は、社会から期待されていると認知した性役割をそのまま受け入れ、実際にそれを行動として遂行していく上で大きな矛盾はなく、性役割の認知と性役割行動は一致しやすい状況があるが、女子の場合は、社会から期待されていると認知した役割を、そのまま受容することに大きな葛藤がみられ、性役割の認知と性役割行動がストレートに結びつかないことが多いと思われる。したがって、柏木ら (1973) も指摘するように、性役割の認知のレベルと、実際どのような性役割行動を示しているのかという性役割行動のレベルとを区別して考えることが必要である。

ところで、わが国において、青年期を対象にした性役割の研究は比較的多くみられるが、小学生を対象とした研究は非常に少ない。その中でも、性役割の

認知という側面に焦点を当てたものになると、東ら（1973）の研究の他にはみられないようである。

東らは、男性または女性の特性と考えられる22の行動特性を取り上げ、それらの行動を取るのが男であるか、女であるかについて、小学校の2年生、4年生、6年生、中学校の1年生、3年生に判定させている。その結果、性役割の認知が学年の上昇に伴って成人のパターンに近づくことや、性役割の認知の次元として、外面的事実→個人的行動→内面的特性→社会的行動の順に認知されることなどを見出したと報告している。しかし、このような方法では、どのような行動に男女差がみられるかについて、子どもに判断させているに過ぎず、子どもの性役割についての認知を調べる方法としては適切でないと考えられる。なぜなら、性役割とは、現実中存在する行動上の性差ではなく、社会が男女それぞれに期待する行動特性のことをいうからである。

そこで、本研究では、56の特性を取り上げ、各特性が男女それぞれにどの程度望ましいかについて、5段階評定させることによって、性役割の受容に男女差がみられるようになる段階の小学生が、どのような特性を性役割として認知しているかについて明らかにしようとした。さらに、性役割の認知にみられる学年差ならびに、男女差についても検討を行なった。

## 方 法

### 1. 調査対象

対象児童は、兵庫県西宮市のK小学校4年生109名（男62名、女47名）、6年生133名（男63名、女70名）、および、N小学校4年生89名（男46名、女43名）、6年生70名（男35名、女35名）である。

また、小学生の調査結果と比較するため、本学児童教育学科の女子大学生158名（1年生91名、4年生67名）にも同じ質問紙調査を行なった。

### 2. 特性の選択と質問紙の作成

小学生における性役割の認知を調べるために、先行の諸研究（東ら、1973；

Bem, 1974 ; Best et al., 1977 ; Davis et al., 1982 ; 柏木, 1967, 1972, 1974 ; 柏木ら, 1973 ; Stericker & Kurdek, 1982 ; Williams et al., 1975 ; Williams & Best, 1977) , ならびに小学生用 Y G 性格検査を参考にして, 男性として望ましいと思われる特性 (以下, 男性役割特性と呼ぶことにする) が 26, 女性にとって望ましいと思われる特性 (以下, 女性役割特性と呼ぶ) が 26 選ばれた (表 1 参照)。これらの特性は, 身体的・外見的なことがら, 行動傾向, 性格を表現したもの, 知的能力に関するもの, 社会的・経済的な側面など, 多岐にわたっている。また, 内容は, 相互に重複しないようにして選択された。さらに, 各特性は, 小学生にも理解できるような表現で記述されており, それらをランダムな順に並べて質問紙が作成された。回答は, 柏木 (1967) の方法を参考にして, 各特性が, おとなの男の人, および, おとなの女の人として, それぞれどのくらい望ましいかについて, 5 段階<sup>注)</sup>に評定させた (図 1 参照)。したがって, 各特性ごとに, 2 つの評定値の記入を求めたことになる。

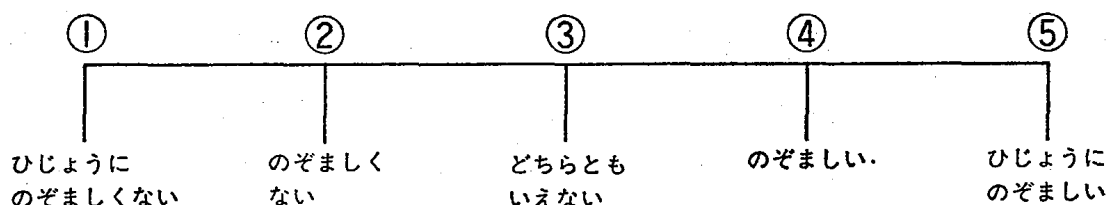


図 1 5 段階評定の方法

### 3. 調査の実施方法

調査は, 1985 年 6 月から 7 月にかけて, クラス単位で, 学級担任によって実施された。子どもたちは, 調査に先立って, 注意事項, ならびに, やり方の説明を受けた後, 練習として 3 つの特性 (①せんたくがうまい, ②らんぼうなことをする, ③まじめである) について, 本調査と同様の方法で 5 段階評定を行った。特に, 各特性が, 子どもではなく, おとなの男の人, および女の人に

注) 柏木 (1967) の場合は, 7 段階評定であるが, 本調査では, 調査対象が小学生であることから 5 段階評定にした。

とってどの程度望ましいかについて尋ねていることに注意して実施してほしい旨、各担任に依頼した。

また、大学生については、1年生、4年生とも、それぞれの講義時間に（1985年7月）、小学生の場合と同様の方法で回答させた。

## 結 果

以下の結果の分析では、4年生男子、4年生女子、6年生男子、6年生女子、および大学生の5つの群に調査対象者を分け、それぞれの群で、56の特性のうちどの特性が性役割として認知されているのかについて調べていくことにした。そこで、各群別に、まず、56の1つ1つの特性において、女性よりも男性の方に高い評定値をつけているもの（これを+で表わすことにする）、男性よりも女性の方に高い評定値をつけているもの（これを-で表わす）、男性と女性に同一の評定値をつけているもの（これを0で表わす）の人数を求めた。次に、0に属する人数を除き、+と-の人数によってサイン検定を行ない、各特性がどちらか一方の性に望ましい特性として認知されているか否かについて確認した。このようにして求めた+、-、0に属する人数、および、サイン検定の結果が表1に示されている。なお、表1に示されている特性のうち、その番号に○印がつけてある特性は女性役割特性で、○印がついていない特性は男性役割特性であることを表わしている。ここで、表1の結果に基づいて、有意差の認められた特性の数をみてみよう。まず、大学生で有意差のみられた特性を拾うと52（男性役割特性26、女性役割特性26）となる。一方、小学生で、4年男子、4年女子、6年男子、6年女子の4群に共通して有意差が認められた特性数は40（男性役割特性21、女性役割特性19）である。

表1 各特性に対して、男性に高い評定値をつけたもの（＋），女性に高い評定値をつけたもの（－），男女に同一の評定値をつけたもの（０）の人数とサイン検定の結果

		男 子			女 子		
		＋	－	０	＋	－	０
① りょうりがうまい	４年生	５	73***	30	１	76***	13
	６年生	４	78***	16	２	90***	13
	大学生				０	118***	40
２. お金もちである	４年生	37	4***	67	15	6*	69
	６年生	33	5***	60	32	7***	66
	大学生				43	2***	137
③ 人からなにかいわれると、すぐに自分の考えをかえてしまう	４年生	13	29*	66	６	20**	64
	６年生	12	30**	56	８	30***	67
	大学生				３	46***	133
④ おしゃべりである	４年生	13	37***	58	12	32**	46
	６年生	11	41***	46	８	52***	45
	大学生				４	74***	104
５. <small>じぶん</small> 自分の考えで <small>こうどう</small> 行動する	４年生	38	11***	59	17	14	59
	６年生	44	9***	45	46	7***	52
	大学生				47	3***	108
６. 大学を <small>そつぎょう</small> 卒業している	４年生	23	11*	74	19	13	58
	６年生	34	6***	58	37	8***	60
	大学生				48	1***	109
⑦ 心がきれい	４年生	６	36***	66	１	18***	71
	６年生	６	29***	63	２	27***	76
	大学生				０	9**	149
⑧ おくびょうである	４年生	22	39*	47	３	47***	40
	６年生	６	51***	41	８	67***	30
	大学生				１	68***	89
⑨ 字がきれい	４年生	16	34**	58	５	23***	62
	６年生	５	32***	61	６	57***	42
	大学生				０	53***	105
⑩ おしゃれである	４年生	５	78***	25	２	64***	24
	６年生	５	74***	19	２	83***	20
	大学生				０	67***	91

11. ぼうけんがすきである	4年生	73	3***	32	46	4***	40
	6年生	65	1***	32	57	1***	47
	大学生				58	1***	99
⑫ すなおである	4年生	14	29*	65	3	15**	72
	6年生	9	20*	69	5	36***	64
	大学生				1	56***	101
13. せが高い	4年生	59	4***	45	53	2***	35
	6年生	54	2***	42	72	5***	28
	大学生				109	1***	48
14. <sup>ゆうき</sup> 勇気がある	4年生	78	1***	29	58	1***	31
	6年生	76	3***	19	89	2***	14
	大学生				77	1***	80
⑮ みんなにすかれる	4年生	15	18	75	1	13**	76
	6年生	6	14	78	4	16**	85
	大学生				0	7	151
16. 心が広い	4年生	18	17	73	6	13	71
	6年生	22	13	63	20	12	73
	大学生				19	2***	137
⑰ かわいい・きれい	4年生	7	52***	49	2	53***	35
	6年生	5	46***	47	5	60***	40
	大学生				1	88***	69
⑱ しらない人とでも、すぐになかよくなる	4年生	23	15	70	8	8	74
	6年生	13	14	71	6	22**	77
	大学生				8	11	139
19. 声が大きい	4年生	55	11***	42	36	4***	50
	6年生	58	3***	37	58	4***	32
	大学生				40	2***	116
20. おもしろいことをいう	4年生	39	7***	62	20	5**	65
	6年生	36	6***	56	42	4***	59
	大学生				19	1***	138
21. たよりになる	4年生	47	5***	56	33	6***	51
	6年生	62	1***	35	72	1***	32
	大年生				117	1***	40

②② ちょっとしたことでも、 くよくよと気にする	4年生	16	30*	62	4	23***	63
	6年生	5	41***	52	3	42***	60
	大学生				0	47***	111
23. 自分でしようと思った ことは、くじけずにや りぬく	4年生	38	5***	65	27	3***	60
	6年生	48	3***	47	47	4***	54
	大学生				42	0***	116
②④ 人にすぐたよる	4年生	7	33***	68	7	22**	61
	6年生	0	44***	54	5	49***	51
	大学生				1	62***	95
25. みんなの意見をまとめ るのがうまい	4年生	39	14***	55	16	9	65
	6年生	33	7***	58	34	9***	62
	大学生				43	2***	113
②⑥ おとなしい	4年生	13	40***	55	3	33***	54
	6年生	9	52***	37	3	64***	38
	大学生				2	69***	87
27. 人にいやなことをいわ れても、「いやだ」と いえる	4年生	41	11***	56	17	1***	72
	6年生	23	3***	72	38	3***	64
	大学生				31	4***	123
②⑧ ギョウギがよい	4年生	10	35***	63	2	32***	56
	6年生	6	34***	58	1	52***	52
	大学生				0	53***	105
29. ①自分の考えを人におし つける	4年生	14	21	72	3	11	76
	6年生	9	13	76	5	20**	80
	大学生				14	9	135
30. 人からそんけいされる	4年生	25	11*	72	13	10	67
	6年生	26	4***	68	34	7***	64
	大学生				24	2***	132
31. スポーツがうまい	4年生	58	3***	47	23	4***	63
	6年生	57	0***	40	59	2***	44
	大学生				51	1***	106
③② ①人に親切である	4年生	12	25*	71	3	11	76
	6年生	10	18	69	8	22**	75
	大学生				1	10**	147

33. <sup>かつぱつ</sup> 活発である	4年生	36	10***	61	38	3***	49
	6年生	57	3***	37	52	3***	50
	大学生				52	1***	105
34. なんでもすることが、 きびきびしている	4年生	29	10**	68	16	10	64
	6年生	30	11**	56	33	6***	66
	大学生				68	1***	89
③⑤ やさしい	4年生	10	42***	56	3	19***	68
	6年生	4	25***	68	5	30***	70
	大学生				1	25***	132
③⑥ 明るい・ほがらかである	4年生	23	23	62	3	22***	65
	6年生	10	25**	62	4	31***	70
	大学生				0	31***	127
③⑦ なにかを <sup>か</sup> 買うとき、ま よってなかなか決めら れない	4年生	23	22	63	7	24**	59
	6年生	11	31**	55	5	48***	52
	大学生				3	46***	109
38. 頭がいい・かしこい	4年生	23	7**	78	12	13	65
	6年生	27	9**	61	25	7**	73
	大学生				36	1***	121
39. 体がじょうぶである	4年生	49	4***	55	22	2***	66
	6年生	32	1***	64	37	1***	67
	大学生				8	2	148
④⑩ 子どもがすきである	4年生	16	16	76	4	12*	74
	6年生	4	14*	79	5	16*	84
	大学生				1	30***	127
41. けんかをよくする	4年生	26	6***	75	14	5*	71
	6年生	25	2***	70	21	6**	78
	大学生				30	2***	126
42. がまん強い	4年生	49	6***	53	25	8**	57
	6年生	51	8***	38	43	8***	54
	大学生				31	6***	121
43. 人の <sup>せん</sup> 先とうにたって、 物ごとをする	4年生	43	12***	53	30	4***	56
	6年生	50	5***	41	59	3***	43
	大学生				80	1***	77



44. よくはたらく	4年生	46	7***	55	19	5**	66
	6年生	45	3***	49	49	4***	52
	大学生				23	2***	133
④⑤ いつも、にこにこして いる	4年生	17	28	63	1	20***	69
	6年生	10	25**	62	9	33***	63
	大学生				0	69***	89
④⑥ ことばづかいがよい	4年生	11	36***	61	3	31***	56
	6年生	9	34***	54	6	42***	57
	大学生				1	40***	117
④⑦ 気が弱い	4年生	15	32**	59	3	25***	62
	6年生	6	52***	39	2	51***	52
	大学生				0	70***	88
48. どんなことにも、「自 分ならできる」という 自信がある	4年生	39	5***	64	26	3***	61
	6年生	47	1***	49	50	5***	50
	大学生				54	1***	103
④⑨ 人にたいして、思いや りがある	4年生	17	17	74	2	13**	74
	6年生	6	25***	67	4	19**	82
	大学生				0	11**	147
⑤⑩ はずかしがりやである	4年生	14	27*	66	4	26***	60
	6年生	11	39***	48	7	59***	39
	大学生				2	56***	100
⑤⑪ すぐになく	4年生	12	29**	67	1	26***	63
	6年生	2	36***	59	2	53***	50
	大学生				0	87***	71
52. 強い・たくましい	4年生	77	3***	26	67	4***	19
	6年生	77	2***	18	91	1***	12
	大学生				127	0***	31
53. むずかしい <sup>もんだい</sup> 問題を考 えるのが好きである	4年生	30	17*	61	23	6**	61
	6年生	35	9***	53	29	5***	71
	大学生				34	3***	121
⑤⑭ 物をかたづけるのがう まい	4年生	14	48***	46	3	36***	51
	6年生	4	56***	37	6	63***	36
	大学生				1	88***	69

⑤ 人のきもちがよくわかる	4年生	13	31**	64	2	10*	78
	6年生	11	25*	61	4	22***	79
	大学生				0	14***	144
56. しっかりしている	4年生	37	8***	63	20	5**	65
	6年生	32	5***	60	41	4***	60
	大学生				61	2***	95

\*.....  $P < .05$     \*\*.....  $P < .01$     \*\*\*.....  $P < .001$

次に、小学生で有意差のみられた特性の数を4つの群、別々に数え、それを男性役割特性と女性役割特性別に示したのが表2である。

表2 小学生において有意差が認められた特性の数

	4年生		6年生	
	男子	女子	男子	女子
男性役割特性	26	20	26	26
女性役割特性	21	26	25	29
計	47	46	51	55

表3 4年生と6年生において、男子と女子に共通して有意差が認められた特性の数

	4年生	6年生
男性役割特性	20	26
女性役割特性	20	25
計	40	51

表4 男子と女子において、4年生と6年生に共通して有意差が認められた特性の数

	男子	女子
男性役割特性	26	20
女性役割特性	20	26
計	46	46

また、小学生における学年差、男女差を検討するために、表1の結果を表2とは異なる形で整理したものが表3と表4である。表3は、4年生と6年生そ

れぞれにおいて、男女両群に共通して有意差がみられた特性の数を数え、それを男性役割特性と女性役割特性別に示したものである。これに対して、男女差をみるために、男子と女子それぞれにおいて、4年生と6年生の両学年で共通に有意差が認められた特性数を数え、男性役割特性と女性役割特性別に示すと表4になる。最後に、小学生で有意差の認められた特性について、有意水準別にその数をまとめてみると表5のようになる。

表5 有意水準別に示した有意差がみられた特性の数

	4 年 生		6 年 生	
	男 子	女 子	男 子	女 子
5%水準で有意差がみられた特性の数	9	4	3	1
1%水準で有意差がみられた特性の数	6	12	6	7
0.1%水準で有意差がみられた特性の数	32	30	42	47
計	47	46	51	55

## 考 察

### I 小学生によって性役割として認知された特性について

ここでは、56の各特性が、小学生によってどちらかの性により望ましい特性として捉えられているかどうか、即ち、性役割として認知されているかどうかについて検討していく。小学生において、4年男子、4年女子、6年男子、6年女子の4群に共通して有意差が認められた特性は、56のうち40（男性役割特性21、女性役割特性19）であった。したがって、残りの16の特性の場合は、4つの群で共通には有意差がみられなかった。しかし、そのうち、5、6、⑮、⑱、25、29、30、⑳、34、㉔、㉕、㉖、38、㉘、㉙、㉚の15特性については、少なくとも1つ以上の群において有意差が認められている。ただし、この中で29番の「自分の考えを人におしつける」については、男性役割特性として質問紙に

入れられていたが、結果からは、逆の女性役割特性として6年女子において認知されていることが明らかになった。結局、どの群においても有意差が認められなかった特性は、16番の「心が広い」だけである。ところが、この16番の場合も、大学生においては有意差が認められている。したがって、もし、東ら(1973)の調査結果が示すように、子どもの性役割の認知が成人の性役割の認知に近づいていくのであれば、この16番についても、子どもの発達に伴って男性により望ましい特性として認知されるようになるものと思われる。このことは、6年生の男子において、この特性で10%水準で差がみられることによって示唆される。おそらく、この特性において有意差がでなかったのは、この場合、「広い」という語が抽象的な意味で使われており、小学生にとって理解が困難であったからではないかと考えられる。

以上のように、本調査で取り上げた56の特性すべてが、学年差、男女差はあるものの小学生の段階ですでに、どちらか一方の性に望ましいもの、即ち、性役割として認知されているか、あるいは、どちらかの性に望ましいものとして認知されつつあることが示された。ただ、今回、取り上げた特性は56と多く、また、その相互の関係が構造化されて捉えられていないので、今後は因子分析などを用いることによって、小学生段階での性役割の認知の次元を明確にしていく作業が求められていると思われる。もう一方で、今回、取り上げた特性以外にも、小学生が性役割として認知している特性があると考えられるので、この点についても検討していく必要があるだろう。

## Ⅱ 性役割の認知にみられる分化の程度について

### (1) 小学生と大学生の比較

有意差が認められた特性の数を小学生と大学生とで比較してみると、小学生4群に共通して有意差のみられた特性数は40、大学生では52となり、小学生の方が少ない。しかし、先にみたように、小学生の場合、4群のうち1群でも有意差がみられた特性となると55となり、大学生の場合よりも多くなる。このように、小学生の場合、4つの群に共通して有意差のみられた特性数が、1群

でも有意差がみられた特性の数に比べて少なくなるのは、表3に示されているように、4年生において有意差が認められた特性数が少ないからであり、6年生でみると、男女両群に共通して有意差が認められた特性数は51となり（表3参照）、大学生の結果とほとんどかわらない。したがって、本調査で用いた性役割特性で捉えた限りでは、性役割の認知において、6年生は大学生と同程度の分化を示しているといえよう。一方、4年生は、6年生、大学生と比較して、性役割に対する認知がより未分化であり、男女それぞれに望ましいとして認知されている特性の数が少ない。

ところで、今みたように、有意差がみられた特性の数では、6年生と大学生との間に差は認められないが、どのような特性において有意差がみられたかについて検討すると両者の間に差異が認められるので、以下、この点について考察を行なう。まず、大学生においては有意差がみられなかったが、6年生では有意差が認められた特性として、⑮、⑱、29、39の4つがある。このうち、⑮、⑱、29の3特性については、6年生の女子においてのみ有意差が認められたものであり、残る39番の場合は、小学生の4群すべてにおいて有意差がみられている。このような結果をどのように解釈すべきかについては、本研究からだけでは明らかでないので、ここでは、このような結果を指摘するに留めておく。逆に、大学生では有意差がみられたが、6年生では男女とも有意差が認められなかった特性として、16番の「心が広い」がある。これは、先に触れたように、小学生にとって、ことばの意味が理解できなかったからではないかと考えられる。

## (2) 小学生にみられる学年差

すでに小学生と大学生の比較においてみたように、4年生の場合は6年生よりも、有意差の認められた特性の数が少ない。したがって、4年生は6年生よりも性役割の認知においてより未分化である。ここでは、この4年生と6年生の差について考察を行ないたい。

表3をみると、男子と女子に共通して有意差が認められた特性の数が、4年

生で40, 6年生で51あることがわかる。このうち, 4年生で男女に共通して有意差が認められた40の特性の1つ1つを表1で検討していくと, それらすべての特性で, 6年生の男子と女子の場合にも有意差が認められている。そこで, 次に, 6年生において男女両群で有意差がみられた51の特性のうち, 4年生でも有意差のみられた40の特性を除いた, 残り11の特性についてみていきたい。これら11の特性は, 4年生の場合, 男子と女子の両群で共通に有意差が認められていないのだが, 表1によると, そのうち男性役割特性である5, 6, 25, 30, 34, 38の6特性は4年生の男子で, また女性役割特性である③⑥, ③⑦, ④⑩, ④⑤, ④⑨の5特性の場合は4年生の女子で, それぞれ有意差が認められている。即ち, これら11の特性の場合, 4年生の段階では, それが自分の性に望ましい特性の時には性役割として認知されるが, 自分とは異性の役割特性の時には, まだ性役割として認知されていないのである。しかし, これらの11の特性の場合も, 学年が上がるにつれて, それが男性役割特性か女性役割特性かにかかわらず, 男女両群で性役割として認知されるようになるものと考えられる。なお, 4年生において, 自分の性にとって望ましい特性の方がより多く性役割として認知されていることについては, 次の(3)の「小学生にみられる男女差」においても触れられている。

以上みてきたように, 6年生になると, 4年生よりも性役割として認知される特性数がより多くなる。このような学年差だけでなく, 表5からは別の種類の学年による差異が示唆される。表5をみると, 0.1%水準で有意差が認められた特性の数が, 4年生では男子で32, 女子で30であるのに, 6年生になると男子で42, 女子で47と増えている。ここには, 6年生になると, 各特性を性役割として認知する傾向が, 4年生と比べてより強くなることが示されている。

### (3) 小学生にみられる男女差

表4に示されるように, 有意差が認められた特性の数は, 男女とも46で同数である。確かに数の上では, 有意差が認められた特性数に男女差はみられない。しかし, 表4から, 有意差のみられた特性の内訳をみると, 男子では男性

役割特性において、女子の場合は女性役割特性において、より多くの有意差がみられている。このことは、男女とも自分の属する性に望ましいとされている特性の方を性役割としてより分化して認知していることを示している。

ところで、男子は男性役割特性を、女子は女性役割特性をより分化して認知しているといった男女差は、東ら（1973）によっても確認されているが、本調査に関していうと、このような男女差が、4年生の結果の反映であることが表2から読み取れる。つまり、6年生では有意差の認められた特性のうち、男性役割特性と女性役割特性の数が男女両群ともほぼ同数であるのに対し、4年生では、男女とも、自分と同性にとって望ましいとされる特性の方でより多くの有意差がみられているのである。これは、4年生の段階では、異性の役割よりも自分と同性の役割をより分化して認知しているのに対し、6年生になると、次第に異性の役割についても同性の役割の認知と同じレベルに達することを示唆している。

以上、各特性に有意差がみられるかどうかという点から結果を分析してきたが、最後に、有意差が認められた特性においても、実際は多数の同一評定値がつけられていることを指摘しておきたい。これは、おそらく、本調査において5段階評定を採用したことによるのではないかと考えられる。柏木（1967）のように7段階評定とか、あるいは、各特性が、男にとって望ましいか、女にとって望ましいか、それともどちらでもないといった3件法による回答を求めているならば、このように同一評定値が多いといった結果にはならなかったものと思われる。

#### 引用文献

- 東 俊子・田中久子・土屋和子 1973 性役割認知の発達 教育心理学研究, 21, 48-53.  
Bem, S. L. 1974 The measurement of psychological androgyny. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 42, 155-162.  
Best, D. L., Williams, J. E., Cloud, J. M., Davis, S. W., Robertson, L. S.,  
Edwards, J. R., Giles, H., & Fowles, J. 1977 Development of sex-trait stereo-

- types among young children in the United States, England, and Ireland. *Child Development*, 48, 1375-1384.
- Davis, S. W., Williams, J. E., & Best, D. L. 1982 Sex-trait stereotypes in the self-and peer descriptions of third grade children. *Sex Roles*, 8, 315-331.
- Havighurst, R. J. 1953 *Human development and education*. New York : Longmans & Green.
- 柏木恵子 1967 青年期における性役割の認知 教育心理学研究, 15, 193-202.
- 柏木恵子 1972 青年期における性役割の認知Ⅱ 教育心理学研究, 20, 48-59.
- 柏木恵子 1974 青年期における性役割の認知(Ⅲ)—女子学生青年を中心として— 教育心理学研究, 22, 205-215.
- 柏木恵子・久野洋子・門馬公子・村山真理 1973 子供の性役割学習過程—母親の要因との関連で—東京女子大学論集, 23, 73-99.
- 南 憲治 1980 子どもの性役割についてどう考えたらよいか 横山 明・高垣忠一郎 (編著)『小学生の発達と教育』第6章 三和書房 Pp. 173-203.
- 南 憲治 1984 小学生における性役割の受容度 親和女子大学研究論叢, 17, 67-80.
- Stericker, A. B., & Kurdek, L. A. 1982 Dimensions and correlates of third through eighth graders' sex-role self-concepts. *Sex Roles*, 8, 915-929.
- Williams, J. E., Bennett, S. M., & Best, D. L. 1975 Awareness and expression of sex stereotypes in young children. *Developmental Psychology*, 11, 635-642.
- Williams, J. E., & Best, D. L. 1977 Sex stereotypes and trait favorability on the adjective check list. *Educational and Psychological Measurement*, 37, 101-110.